

2021年度 国内・海外出張旅費に関する調査結果

コロナ禍で減少する国内・海外出張、 規定上の出張関係費は据え置かれる傾向 ～国内出張規定を見直した企業は14%、海外出張では15%～

人事労務分野の情報機関である産労総合研究所（代表・平盛之）は、このたび「2021年度国内・海外出張旅費に関する調査」を実施しました。本調査はほぼ2年おきに実施しています。

今回の調査項目は例年と同じく国内および海外出張についての企業規定の状況を調査したものです。コロナ渦中での調査のため、出張の機会自体が少なくなっている企業も多く、実際、本調査の結果でも約8割が「国内出張が減っている」と回答している状況にあります。このような状況を踏まえたうえで、自社の規程を見直す参考にしてください。

主なポイント

- (1) コロナ禍で8割の企業が国内出張を減らす中、出張規定・運用ルールの見直し済みの企業は14%にとどまる
- (2) 宿泊料は、全地域一律は9,149円、実費上限は9,750円 企業の出張時の宿泊料は据え置かれる傾向にある
- (3) 出張時、航空機等より新幹線の特別席が認められる傾向 役員のグリーン車を許可する企業が増加傾向？
- (4) コロナ禍で95.3%の企業が海外出張を減少させた 規定上の円建て滞在費は北米地域で減少傾向

●調査概要

調査期間：2021年9～10月

調査対象：一般企業3000社

回答企業：150社

調査内容：2021年度 国内・海外出張旅費に関する調査結果

調査結果ページURL：<https://sanro.cc/pr2202d>

発表：『労務事情』誌 2021年12月1日号、12月15日号で公表後、公式サイト上に2022年2月14日に掲載

本件に関する
問い合わせ先

『労務事情』編集部 担当：日野、黒田

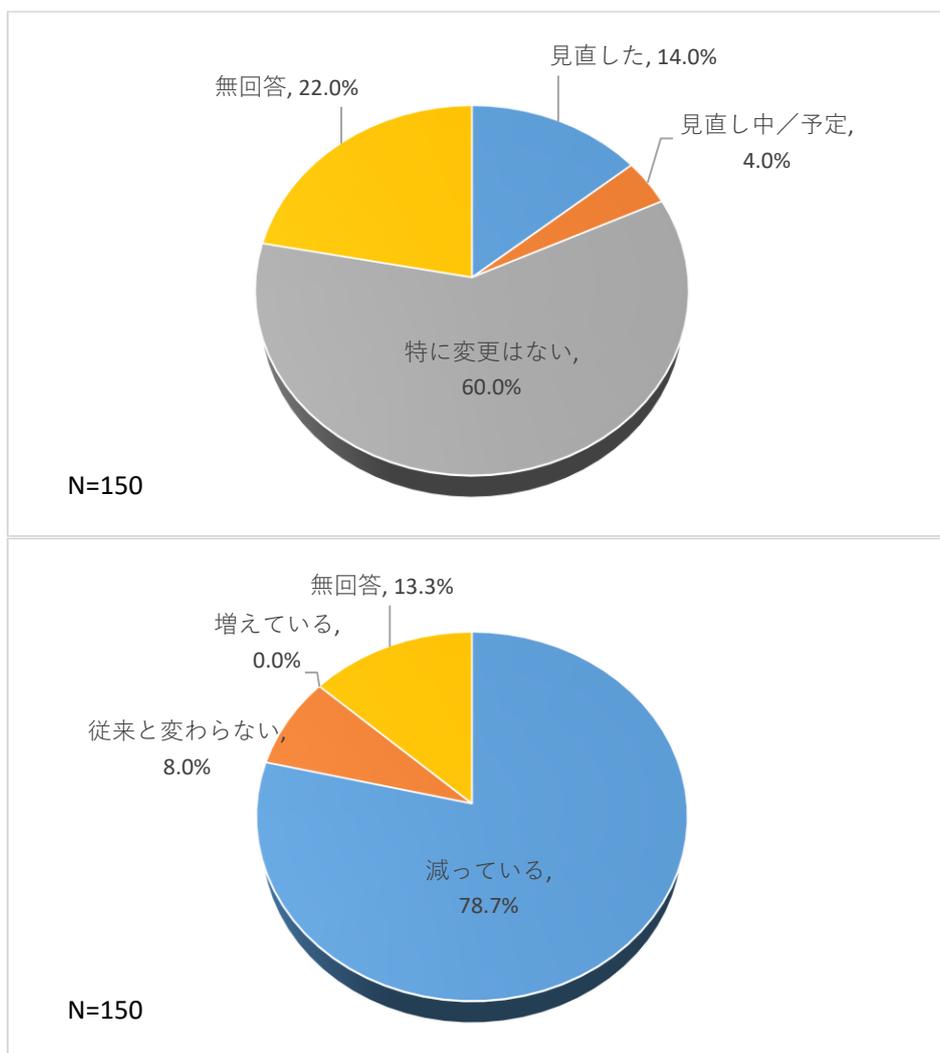
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1 三宅坂ビル

■電話 03(5860)9792 ■e-mail:edt-b@sanro.co.jp ■<https://www.e-sanro.net/>

(1) 【コロナ禍における国内出張の機会と規定の見直し】

コロナ禍で8割の企業が国内出張を減らす中、
出張規定・運用ルールの見直し済みの企業は14%にとどまる

新型コロナウイルスの感染拡大は、国内外の出張に大きな影響を与えています。2021年の出張の機会を尋ねたところ、国内の出張は「減っている」が78.7%となりました。こうした状況にありながら、出張規程を「見直した」とした企業は14.0%にすぎず、「見直した」「見直し中／見直し予定」を合計しても18.0%と低い水準になっています。



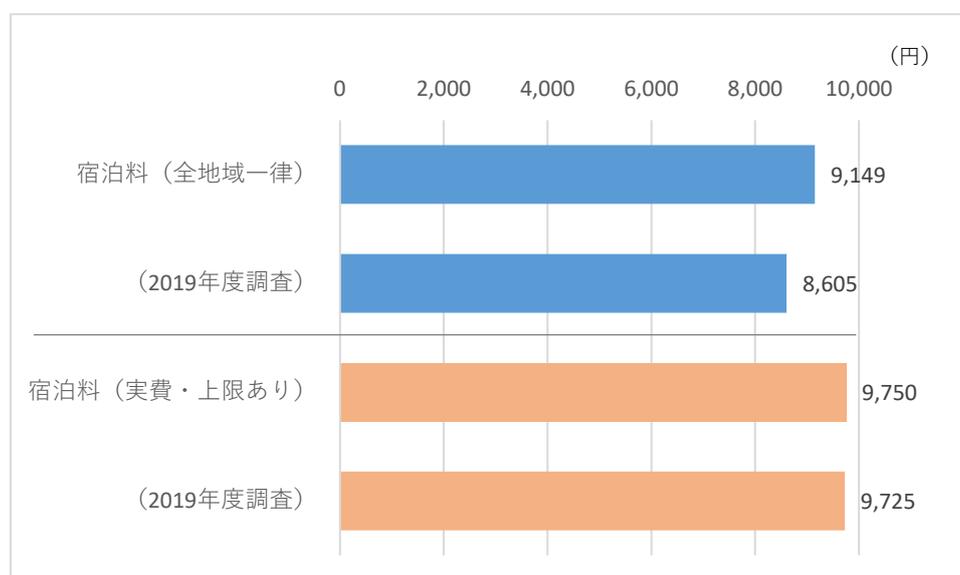
図表 1 コロナ禍での国内出張の機会・回数の変化

図表 2 コロナ禍での国内出張の規定や運用の見直し

(2) 【国内出張 宿泊出張の宿泊料】

宿泊料は、全地域一律は9,149円、実費上限は9,750円 企業の出張時の宿泊料は据え置かれる傾向にある

宿泊出張の宿泊料金について尋ねたところ、各企業の規程での金額は「全地域一律に支給される企業」で9,149円となり、過年度調査に比べやや増加、「宿泊料が実費支給とされる企業」の実費上限額は9,750円で過年度調査と比べ横ばいでした。ビジネスホテルの平均宿泊料は、コロナ禍の影響を受けて低下する傾向にありますが、規程上の金額はそれに連動していない状況になっています。



※1 いずれも支給額が全国一律の場合である。

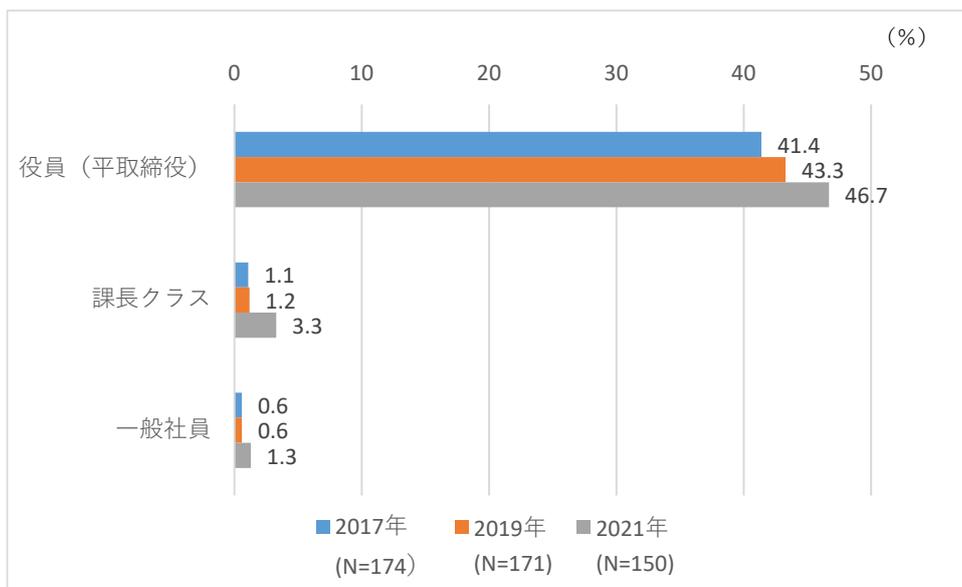
図表 3 支給方法別 国内宿泊料の規定金額 (2019年調査との比較)

(3) 【国内出張 新幹線、飛行機でのグリーン車・スーパーシート等の利用】

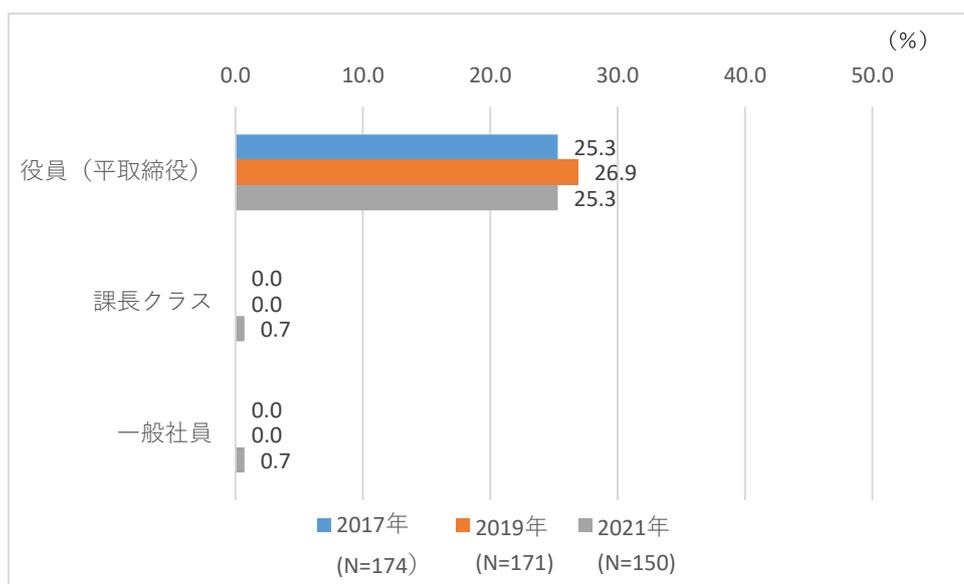
出張時、航空機等より新幹線の特別席が認められる傾向
 役員のグリーン車を許可する企業が増加傾向？

出張時の新幹線のグリーン席利用の許可状況をみると、役員は46.7%、課長クラスで3.3%、一般社員は1.3%で認められており、いずれも微増傾向が見られる。

一方で、航空機スーパーシート等の許可状況をみると、役員は25.3%、課長クラスで0.7%、一般社員は0.7%で認められており、課長クラス以下では、ほとんど認めれていない状況がわかった。



図表 4 新幹線グリーン車の許可状況 (推移)



図表 5 航空機スーパーシート等の許可状況 (推移)

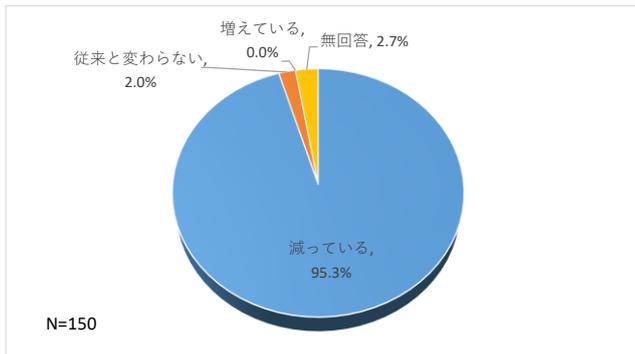
(参考：【海外出張の機会と規定の見直し】)

コロナ禍で95.3%の企業が海外出張を減少させた

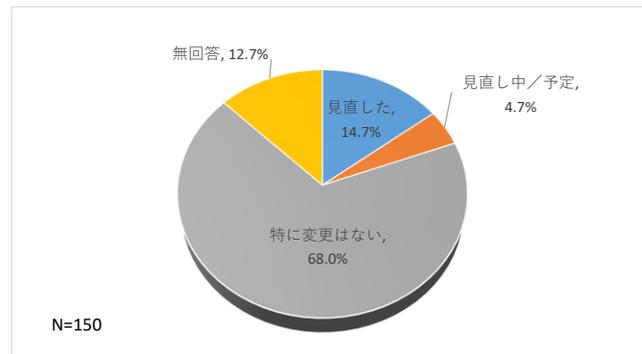
規定上の円建て滞在費は北米地域で減少傾向

海外出張は「減っている」が95.3%を占め、規定については「見直した」「見直し中／見直し予定」の合計で19.4%であった。

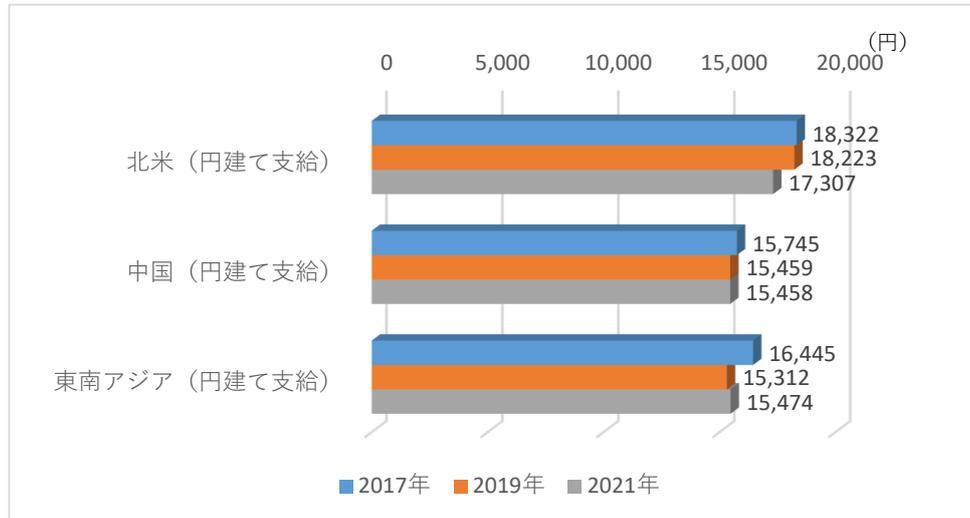
一般社員の滞在費を地域別にみると、北米17,307円、中国15,458円、東南アジア15,474円で、北米地域では現象傾向。中国、東南アジアは減少から横ばいとなっている。



図表 6 コロナ禍での海外出張の機会・回数の変化



図表 7 コロナ禍での海外出張の規定や運用の見直し



図表 8 海外出張の滞在費 (日当+宿泊料+食事代+雑費)

2021年度 国内・海外出張旅費に関する調査結果 —産労レポート（詳細版）販売について—

国内・海外出張旅費に関する調査は、出張費用の支給内容や取扱いなどについて、みなさんがどのように取り扱っているかを尋ねた調査です。

2021年度調査は、コロナ禍での出張状況や規定の見直しについて注目し、各種の調査を行っています。調査項目は収録内容比較表でご確認ください。

冊子版または電子版（PDF）どちらを購入しても 購入者特典のエクセル図表データと労務事情本誌で好評を博した出張手当の基本についてまとめた記事「出張手当の考え方」のPDFが付属が付属しています。

商品同封のURLからダウンロードしてください。

<https://sanro.cc/pr2202d>

【販売概要】

- 冊子版・電子版（PDF） 税込価格 8,800円（送料無料）
- 73頁
- 発行日 2022年2月14日

【主な調査項目】

（国内出張）

- 日帰り出張 日当の支給状況、日当の支給基準、食事代の取扱い、日当の平均支給額、食事代の平均支給額
- 宿泊出張 日当の支給状況、食事代の取扱い、宿泊料の支給方法、宿泊料の地域区分、日当の平均支給額、宿泊料の平均支給額、日当+宿泊料の平均支給額、食事代の平均支給額
- その他の取扱い 早朝出発・深夜帰着の取扱い、長期出張の減額措置、新幹線・グリーン車等の利用、社有車・マイカーの利用、有期契約社員の出張、出張の機会・回数

（海外出張）

- 支度料 支給状況、支給の格差、再渡航の取扱い、平均支給額
- 滞在費 支払い通貨、支給方式・食事代の取扱い、支給区分
平均支給額、平均支給額（定額支給）、日当の平均支給額（宿泊料実費時）、食事代・雑費、日当+宿泊費+食事代+雑費
- その他の取扱い 障害・疾病保険、長期出張の減額措置、食事代の平均支給額、機中泊の取扱い、航空機の利用基準、海外出張の機会・回数